海外派遣留学プログラム月間報告書

2019.8.29~2019.9.18

1. 勉学の状況

初めに、私は「何か具体的な学問を学びたかったから留学に行く」というのではなかった。志望理由書には当時興味を持っていた学問を学びたい旨を書いたが、いざ留学が決まると自分のやりたいこと、学びたいことは何百回考えても浮かんでこなかった。私は留学が目的になっている人だったと思う。「留学したい」、いや半ば「しなきゃ」という謎の義務感から応募したような気もする。私は興味の範囲が非常に幅広く、時期によってころころ変わるため、「今」面白そうだと感じたもの、自分の直観で履修する授業を決めることにした。

最終的に履修することを決めたのは①Introduction to Philosophy, ②World Regional Geography,③Introduction to International Studies の 3 つだ。私は授業を決める際に Rate My Professors というサイトを大活用した。これはレジャイナ大学だけでなく、海外の主要な国の大学の教授たちが生徒たちによって評価づけられているサイトである。海外ならではのサイトという感じだが、結構評価は当たっている印象を受けた。とはいえ評価が高い教授でも、自分に合うか合わないか、英語のしゃべり方が聞き取りやすいか否かなどの相性を何より重視した。当初は Today's World; Historical Perspectives という授業を取るつもりでいたが、テロを事例とした専門的な内容で英語が 10%しか理解できなかったことから履修を取りやめた。教授がとてもいい人で、私のことを気にかけてくれていて最後まで取りたくて悩んでいた。

① Introduction to Philosophy

海外で哲学を学ぶと深い考え方を学べそうだという推測、そして前述したサイトの私が見た中で最も評価が高い教授の授業だということもあり履修を決めた。教授はとても親身な方だ。予想とは一転、プラトンやソクラテスやジョン＝ロックなど、受験ぶりに偉人たちの思想を学ぶというものだったが、教授がそれら先人の考え方を抽象化して一般化してくれる授業の展開の仕方であるため、非常に共感深くて面白い。

② World Regional Geography

「一つの授業の中で幅広く世界のことを学びたい」と何となく思っていたため、世界の様々な場所について授業で触れていく中で諸地域の知識を幅広く深く身に着けられる授業を探していた。また教授がアフリカを専門としていることから、自分にとって新しい世界の話を聞けそうで面白いなと思い履修を決めた。教授の英語も聞き取りやすく、3 つの中で一番内容がわかりやすい。主にアジアの地域ごととアフリカについて触れていくようだ。

③ Introduction to International Studies

テロの授業の代わりにとったが、この手の類は千葉大で何度も学んできたので最後まで取るのを避けていた。色々探してみて最終的に消去法で選んだが、海外にいるので本当はもっと自分にとって新しいことを学びたかった。国際機関や移民、食物、貧困や戦争など様々なトピックをさらっていくようだ。

どの授業にも共通して言えることは、リーディング課題が毎回設けられていて中間試験、最終試験があり、しっかり勉強せざるを得ないと状況であるいうことだ。時間がたっぷりあるため勉強する時間は十分にあるが、私は今のところだらけたり甘えたりしているのでそろそろしていかないと大変なことになりそうだ。3 つの授業とも教授を決め手にしたため全員私のお気に入りの先生で、パッションがあって生徒に質問を投げかけるのが好きな人たちだ。

2. 生活の状況

2 週間弱経過した辺りからようやく自分なりの過ごし方がつかめてきて、今では私のペースで楽しいと思う日々を送れている。正直最初は辛いと感じていた。自分はどちらかというと留学したらその環境や土地柄に影響を受けて染まる方だと思っていたので、日本を恋しくなることはないと思っていた期待が裏切られ自分がそのような状況になったことに驚き、環境に溶け込めないことにショックを受けたのを覚えている。

過去に一人で留学したときの思い出がとても素敵なものだったこと、カナダに留学した知人たちがそろって充実した留学生活を送っていたこと、カナダが 3 回目であることから、「私なら大丈夫」「余裕」と思っていて、その予想と現実とのギャップに苦しんだのだと思う。初めは部屋にこもって日本にいる人と連絡を取ったりしていたが、これではお金かけてここにいる意味がないよなと思いつつも勇気が出ず、自分が英語さえ話せればと感情も混在していて、どうすればよいかわからなかった。

2 週間たった今では、新しい人と出会うことも英語で話すこともここでの生活も私なりに楽しいと感じるようになった。最初は希薄な人間関係にやるせなさを感じたり、ここで友達ができるのだろうかと後ろ向きにもなったが、今はよく顔を合わせる人や安心してしゃべれる人ができたり、英語をそれほど恐れなくなったことなどから、こちらでも心から笑ったり爆笑できたりしている。

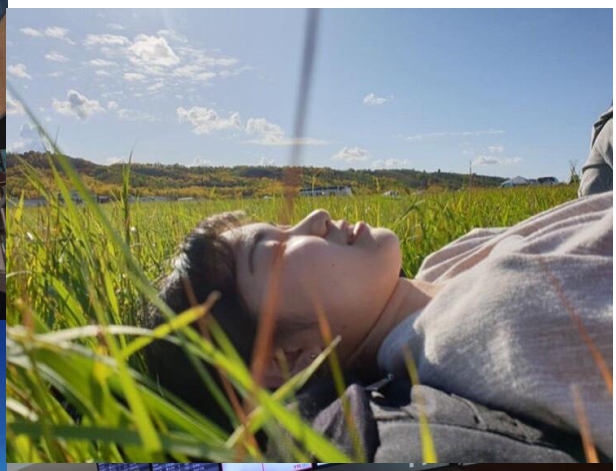
私生活では、知り合いの紹介でサッカーチームに入り、9 月末から始まる大学のリーグに出場することになった。私は幼い頃にサッカーを習っていたので留学先ではサッカーをしたいと思っていた。今回誘いが来て参加したが、女子プレイヤーは私ともう一人だけで、それ以外は全員男子、エジプトやコロンビアなどサッカー本場の出身のチームメイトのプレイを生で見ることができて感動している。ここの人たちはミスしたかどうかは重要ではなくトライしたことを評価し「今の良かったよ」などと必ず声をかけてくれる。初めは男子のスピード感のあるプレイの中でやるのに怖気づいてプレイを制限し

ていたが、ミスしてもトライを笑顔でほめてくれることに気づいてから、失敗を恐れず自分の気持ちに正直に、ボールを追いかける楽しさを感じている。エジプト人が「僕たちは子供の時からサッカーをしていて、みんな話すよりもまず先にボールを蹴るんだ」と言っていたのもなんだか素敵だなと思い心に残っている。皆フレンドリーで優しく、毎回このサッカーの練習が楽しみである。体を動かすこと(私は団体競技)はすごくストレス発散になるのでオススメだ。

私は、変わりたい、より良い人間になりたいと思って留学したが、今のところ結構日本語で話す機会に頼ってしまっているなとものすごく自覚している。結構日本語で話す機会はあるものなので、自分から果敢に勇気を出して英語を話す機会を作らないと、ただ「海外で暮らしている」という事実がそこにあるだけで日本とさして変わらない生活を送ってしまうと思う。

ただ、カナダで生活してみて、日本は暇が許されない忙しい社会だなとよく思う。留学中は暇な時間がすごく多いが、遊びすぎず勉強しなきゃという罪悪感を感じてしまうことに自分の日本人性を実感させられる。気張らず、人生でこれほどゆっくり時間を取れる時間はもうないからいろいろ経験して過ごしたいと思う。

今の私は自分に甘く挑戦を避けているけれど、これから少しずつ私のペースで自分を律して、当初の目標や描いていた像と変わったとしても、挑戦を仕掛けて何かしら変われるように充実させていけたらいいなと思う。



海外派遣留学プログラム中間報告書

(2019.9.19~2020.1.7)

1. 勉学の状況

久しぶりに日本語でタイピングするので変な感じがします。こちらに来て初めての学期、Fall semester が無事終わり、すべてのスコアが出そろいました。思ったよりも悪くなかったので一安心です。Winter semester では、300 番台の授業と 200 番台の授業を多めに取ろうと思いました。Introduction をはじめとする 100 番台のコースは、日本人なら高校や大学で既に習った内容ばかりで、2，3 年生なら十分 200 番台以上のレベルのコースをとることができます。同時に、日本の大学の講義のレベルは高いなとも思いました。特に前期に取った Introduction to International Studies は、国際教養学部っぽく幅広くてぼやっとしていたのでやや退屈でした。前学期は一授業に一人ずつ友人がいたので特に苦労もなく気楽でした。また、少人数授業や授業内のディスカッションもなく、たまに近くの人と意見交換してという指示などはあり一番ハラハラする時間でしたが、それ以外は完全に講義でした。留学を控えている人や考えている人は授業を英語で聞き取れるか不安だと思います。私も行く前は授業の英語なんて聞き取れるはずないと思っていましたが、誰でも何とかなるので安心して留学してください。というか全て聞き取れなくても大丈夫なんだなと心の余裕が生まれます。

今は 2 週間のお試し期間(千葉大学と同じシステム)で、今学期の授業は最終的にはまだ決定していませんが、せっかくカナダにいるので単位互換のことは気にせずむしろこちらでしか受けられないような授業を取ろうと気持ちが変わりました。千葉大と同じような授業をこちらでも受講するなら、留学の意味がないと思うからです。また単位互換が認定されにくいともよく聞くので、それなら最初から気にしないで授業を取ろうという気持ちです。今までずっと文化とか概念とか抽象的なことを自分なりに考えることが好きだったのですが、前学期を経てそれを考えてもどうしようもないなと思うようになり、むしろもっと具体的で専門的な新しい分野に挑戦したいと思うようになりました。今学期の授業については多くの選択肢の中でまだ悩んでおり、未知の Astronomy や Sociology of Mental Illness などが候補に挙がっています。周りの日本人も授業を一つ増やしたりレベルを上げて受講したりする人が多いようです。

2. 生活の状況

思ったよりもレジャイナの冬は寒くなくて全然いけるなというのが正直な思いです。日本の寒さと違って湿気ではなく乾燥なので、数字こそ驚異的なものの実際は透き通った空気が心地よく私は好きです。ただ、風が吹くと地獄です。

前回これを書いた時の気持ちを今でも鮮明に覚えていますが、こうも気持ちが変わるものかと驚いています。初めの頃は本当に自分の英語が思ったよりも発音的に通じないことや、そのことから派生して様々なことに積極的に飛び込めず、当初描いていた自分

の留学ライフとのギャップを感じてこの留学期間を楽しく終えられるだろうかと心が真っ暗の状態でした。こんな田舎好きになるかと思っていたし、この大学や留学自体の選択が私には向いていなかったのではないかと後悔もしました。

1 か月半たったころには、すっかり今の環境に居心地の良さを覚え、8 か月では足りないもっと滞在したいと思うまでになりました。他人と比べずマイペースに自分の人生に今ある小さな幸せに気づいて感謝していけばいいのだと思います。現地でも日本からも、私の生活を一緒に築き上げて楽しくしてくれている人々のおかげです。あとは自分と合う人と一緒にいる事。最初の頃に部屋を変えてから生活空間に関する悩みがなくなり、自宅に共通の友達を呼んだりして楽しい毎日を過ごせています。今学期は新しくスコットランドとフランスからルームメイトが増えて、日本人 2 人の生活から一転にぎやかになりました。いい子たちで気さくにたくさん話しかけてくれて、家でも英語を話す環境にドキドキしつつ嬉しく思っています。現地の友達では、特にサッカーメイトが私の生活で欠かせない存在になっています。メンバーの誕生日を毎回みんなで派手にお祝いしたり、毎週練習や大学のリーグで顔を合わせていますが、スポーツを通して人とつながるということが素敵なことだとつくづく体感させてくれます。この人たちがよく「exchange period をもう 1 年 extend して」と言ってくれるのが嬉しい反面、本当にできたらどんなにいいかと思います。

人とのつながりが本当に面白いなと思う日々です。新学期はできるだけ英語をたくさん話す環境に飛び込もうと思い、わけもなくカフェテリアのフードコートに座って課題をしていたら隣の人と会話が始まり、その場限りだと思っていたら翌日また偶然会って仕事を頼まれて友達になったり。また、新年にレジャイナ日本人コミュニティのポットラックパーティーを教会でした後、大学まで送ってくれた方が日本でもカナダでも人事のお仕事をしていて、3 年生なら就活について知りたいよねと言って今度お家に招いていただくことになったり。ずっと後になって、友達の友達として出会った人や、イベントなどで出会った人と繋がることもたくさんあります。過去の意味がわかること、というよりそれに意味を見出すのはずっと後になってからなので、初めの頃は友達や英語で悩むとは思いますが、焦らず人と比べず自分のペースで生きてください。私は最初留学中に深い話を英語で語れる友達に出会えることを期待していたけど出会えず沈んでいましたが、逆に今はこちらの悪く言えば浅い、よく言えばフレンドリーで誰でも友達な文化に居心地の良さを感じています。英語がうまく話せないことに申し訳なさを覚えて自分から会話できない私はまだまだいますが、英語がありふれているこのありがたい環境を、残りの時間大切にして生活していきたいです。年度末の 3 か月は毎年本当に一瞬で過ぎ去るので、一つ一つの出会いと一人一人の友達との時間を大切に。

◁Broadway Musical にて The Phantom of the Opera を見ました、最高です。（New York, NY）

▷ベラージオホテルの噴水ショー　（Las Vegas, Nevada）

◁サンタモニカの夕日。素晴らしすぎました。　（Los Angeles, CA）

▷マンハッタンの夜景にて　（New York, NY）

◁シアトル。渋い街が好きな人にお勧め。今回の旅で一番気に入ったかもしれません。（Seattle, WA）

▷アナハイムディズニーでのカウントダウン。一生忘れません。年越しに一番お勧めのスポットです。ショーがすごすぎます。動画載せたいくらいです。（Anaheim, CA）

でも、なんだかんだ結局レジャイナでの日々が一番です。

海外派遣留学プログラム最終報告書
(2020.01.08~2020.4.23)

＜後期の授業と生活の様子＞

結局、冬学期は 4 つ授業を取りました。1. People Power and Politics, 2. Anthropology of Language, 3. Families, 4. Sociology of Mental Illness です。一つは 100 番台でそれ以外は 200 番、213 番、299 番と専門的な内容を取り、前期の導入編の 100 番台に比べて今期の授業の内容はどれも大変興味深いものでした。しかし成績は全く悲惨なもので、100 番台の授業以外見た時目を疑いました。全て単位は取れていたので良かったです。

コロナウイルスの影響で最終試験はすべて take home exam になりました。英語で 2500 字×4 回書くのは想像以上に厳しかったです。今期はどの授業も課題の段階で何度もブログやリサーチペーパーなどを書いていて、前期より遥かに自分としては成長したし慣れたなと思っていたのですが、成績を見る限りナンバリングが高くなる程要求する質も高くなるのだなと痛感しました。英語で書くとなると主張は弱まりインパクトも薄まり、伝えたいことを伝えるという以前に思考することが制限を受けている感覚になります。どのように具体例などを織り交ぜながら文字数に到達させられるか常にハラハラで、言語の壁はまだまだあるなと最後の最後で今の自分のレベルを思い知らされました。

最も恐れていた寒さですが、どうやら今年は暖冬だったらしく 1 月半ばに体感-40℃の週が 1 回あっただけでした。「ついに始まった！」と身構えたのにそれが最初で最後でした。どうやら 1 年おきに暖冬と寒冬が続くみたいです。-40℃の寒さなんてもう二度と経験できないかもしれないので、せっかくなら身をもってすさまじい寒さを経験しておきたかったなと惜しむ気持ちはあります。ただ元より、この真冬の鬼のような気候下で外に出なくていいよう寮も大学も教室も全て内側で一繋がりになっていて、私用以外で外に出る必要がなかった(私用：スーパー、お出かけ、外食、サッカーなど)のも、寒さを経験しなかった一つです。また、室内は常に場所も季節も問わず平等に同じ気温だったので、真冬でも半袖で過ごしている人はごろごろいました。実際私も室内で寒い思いをしたことは全くありませんでした。

定期的に続けていたサッカーでは、2 月の半ばの練習中に怪我をして最後の 2 か月は十分に打ち込めませんでした。帰国後 3 か月経つ現在でも怪我は完治はしていません。練習中、相手チームのディフェンスをしようと試みて敵の足の甲の上で激しくくじいてしまい、その場で歩けなくなり数日後病院に行ってレントゲンを撮ったところ、捻挫だと言われました。ですが、先日日本の病院で診察してもらうと靭帯損傷でした。私は自分が経験するまで、研究や医療などは英語や海外のものが翻訳されて輸入されたり適応されたりして日本社会に流れ込んできたものであり、海外の知識や技術は最新で正確という印象がありました。しかし、実際には英語だから/海外だから質が高いとか正当性があるとかいうのは神話でしかないということを、我が身をもって学びました。

カナダのクリニックでは診察室に呼ばれてから 1 時間、エマージェンシー(総合病院)では 3 時間待たされ(まずここに驚きでした)、「フィジオセラピーに行くように」という指示に従い診察後からは週 1 でフィジオセラピーに通って歩く練習をしました。しかし、帰国後日本でもう一度レントゲンを撮り医者に言われたことは「ベルトで固定してなるべく無駄に動かさないように」でした。おそらく、カナダで完治していない間に歩く練習など足に負担をかけ過ぎたことで状況が悪化した(もしくは、最初のレントゲン判断の時点でもともと捻挫ではなく靭帯損傷だった)と思われます。未だに腫れは引いておらず、完治するのかもわかりません。しかし、海外の病院や海外保険など、自分が実際に利用するとは思っていなかった経験をできたことは、決してマイナスではないと思っています。

<COVID-19 による留学先での勉学と生活への変化>

もともとは 4/28 に帰国する予定でしたが、政府と学校と親の要求で 4/5 に帰国しました。サスカチュワン州では 3 月の第 2 週目に初めての感染者が出ました。私たちの町から 2 時間半ほど車で離れた町でしたが、その日はレジャイナでも大騒ぎでした。大都市で感染者の多いバンクーバーからもトロントからも離れた一番内陸であるため、私たちの州にはウイルスは入ってこないだろうとみんな安心しきっていたからです。

レジャイナ大学は州で感染者が出た翌日に学期末までのオンライン授業の決断を下し、町も一週間後には正式にロックダウンになりました。レストランに行けなくなったり、人と会えなくなったのは残念でしたが、日本の政府の状況と比較した際のカナダの政府の対応をリアルに当事者として体験でき、いい意味で驚きました。

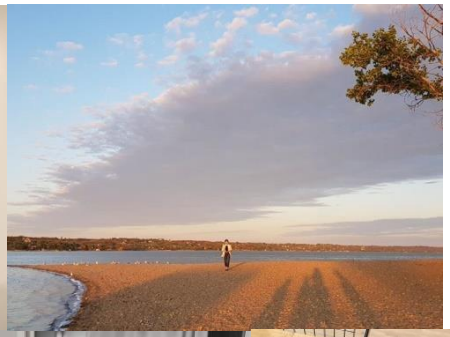
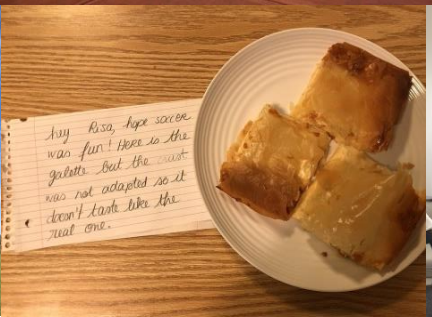
このステイホームの期間に今までできなかった就活や課題を進められ、個人的にはこのような形になってかなり助かった部分がありました。私は 3 年後期からの留学だったので、就活の時期と被ることを不安に思いながら、長年の目標の留学を決意しました。コロナの影響で例年と変わって説明会が Web になったため、実質日本にいるのと変わらない状況で留学生というアドバンテージを使って就活を進めることができました。

今まで政治への関心を放棄して暮らしてきてしまったのですが、今回のコロナはそれぞれの国の対応の違いがしっかりと表れており、ニュースをよく見る習慣がつき時勢の変化に敏感になりました。そして政治や時事問題に対して自分の意見を持つようになりました。コロナは 9 月入学の導入やリモートワークなど、その後の世界に変わるきっかけをくれた事象でもあります。保守的な日本だからこそ、この事態が変革のきっかけになればいいなと思います。正直政治についての知識は乏しいのですが、こうして比較対象の国がある中で、情報開示の透明性・国民への支援金制度・政府の国民への考え方などの違いを見ていると、日本の政府の姿勢には憤りを感じる日々です。

＜留学に行って思う事＞

一言でまとめると、留学に行ってよかったと思います。私は留学中、旅行先のカリフォ

ルニアで信号無視の車に轢かれましたが、奇跡的に無傷で生還しました。現在コロナの騒動もありますが、命さえあればその後でどうにでもなるのだと思いました。現地の人に打ちのめされること、留学先で思いもよらず日本の事で悩み続けた日々もありましたが、そうした時期も今となっては不思議と良かったなと思うものです。今後留学をされる方も思い通りにいかないことはあると思いますが、留学中もがいた辛い経験はきっと留学後や人生のずっと後に味方してくれると思うので、ぜひ辛抱強く、そして自分のペースで楽しく頑張ってほしいです。

私自身、留学を終えて留学に成長の機会を求めていた自分を恥じる気持ちも少し有りますが、やはり変化はしたように思います。とてもベタなことですが親の 21 年間の養育や資金面への感謝は、自分が家を出てみて具体的に実感するものでした。また、人に対しての接し方、物事への考え方、自分や人への客観視の仕方などは、行く前の自分とは少し違うな、とたまに気づくことがあります。今自分の目の前に広がる状況や世界が決して全てではなく、自分のステージがこことは限らないと少し落ち着いて考えるようになりました。

留学中、一つ一つの小さな事から感じたことを挙げたらきりがないほど、感じて感じて心が揉まれ続けた 7 か月間でした。とにかく楽しかったです。特に後期は、前期にできた友達との仲が深まりながら、その繋がりで新しい友達も増えていって最後にはたくさんの大好きな友達への気持ちであふれていました。今後の人生を歩んでいく上で、穏やかな変化をくれた重要な月日になったと思います。レジャイナ大学で過ごせた時間は心から大切で素敵なものでした。一歩勇気を踏み出せば何とかなり、新しく素晴らしい出会いと経験が私を待っていました。日本と海外で関わってくれた全ての人に感謝しています。